

# 東洋炭素 2009年5月期 決算説明資料

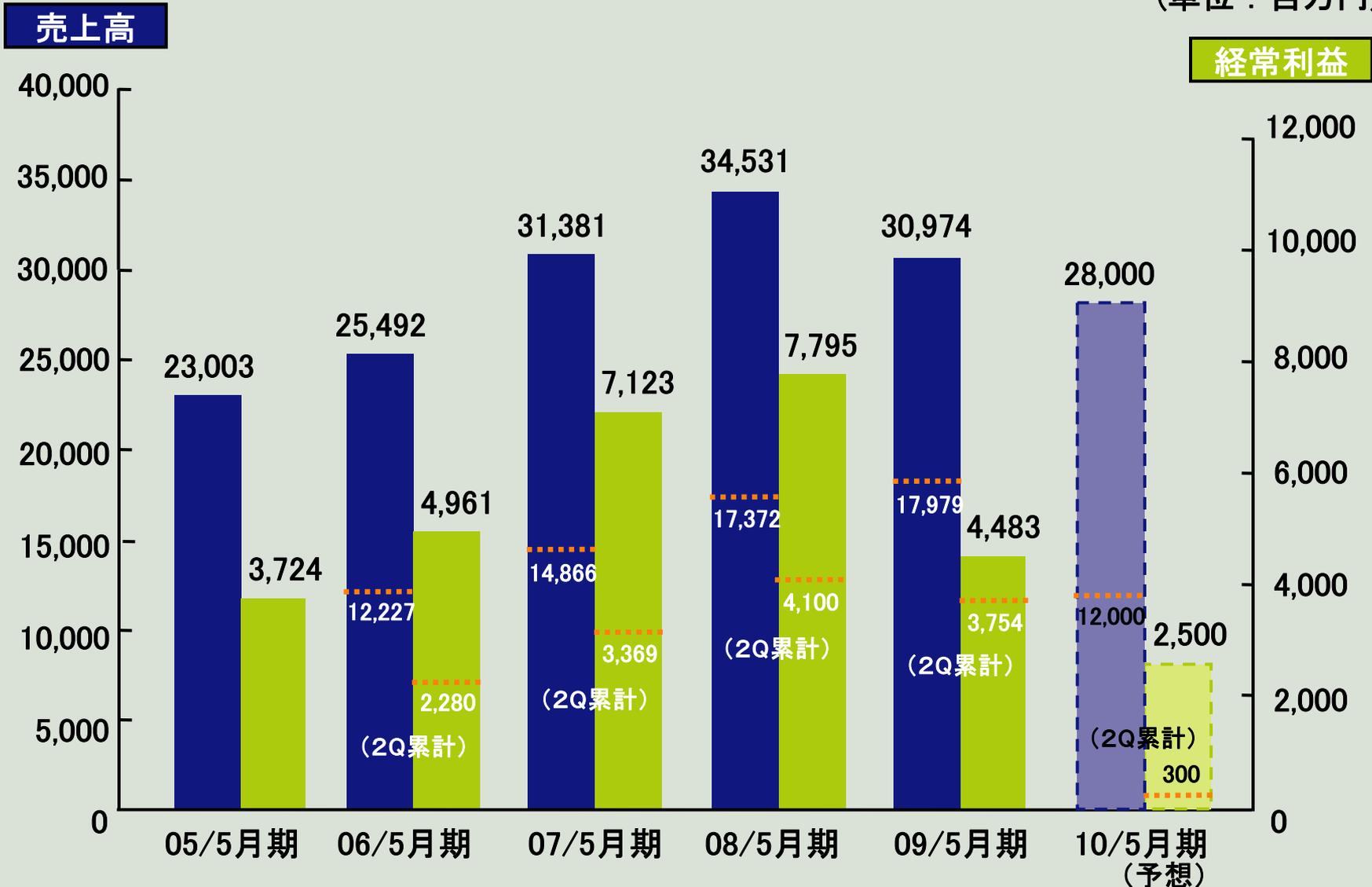
2009年7月

東洋炭素株式会社

1-1.	業績推移	P. 3
1-2.	2009年5月期業績	P. 4
1-3.	経常利益増減要因	P. 5
1-4.	製商品・分野別概況	P. 6
1-5.	地域別概況	P. 9
2-1.	2010年5月期業績予想	P. 10
2-2.	将来への投資（設備投資・減価償却費・研究開発費）	P. 11
2-3.	株主還元	P. 12
2-4.	主要経営指標の推移	P. 13
3-1.	トピックス ～各国の展示会に出展～	P. 14
(参考1)	2009年5月期貸借対照表	P. 15
(参考2)	2009年5月期キャッシュ・フロー計算書	P. 16

# 1-1. 業績推移

(単位：百万円)



# 1-2. 2009年5月期業績

	(単位:百万円)			
	08/5月期	09/5月期	増減額	増減率
<b>売上高</b>	34,531	30,974	▲3,556	▲10.3%
<b>営業利益</b>	8,031	4,741	▲3,290	▲41.0%
(売上高営業利益率)	(23.3%)	(15.3%)		
<b>経常利益</b>	7,795	4,483	▲3,312	▲42.5%
(売上高経常利益率)	(22.6%)	(14.5%)		
<b>税引前利益</b>	8,162	4,615	▲3,546	▲43.5%
<b>当期純利益</b>	5,143	2,566	▲2,576	▲50.1%
<b>1株当たり 当期純利益</b>	247円33銭	123円80銭		

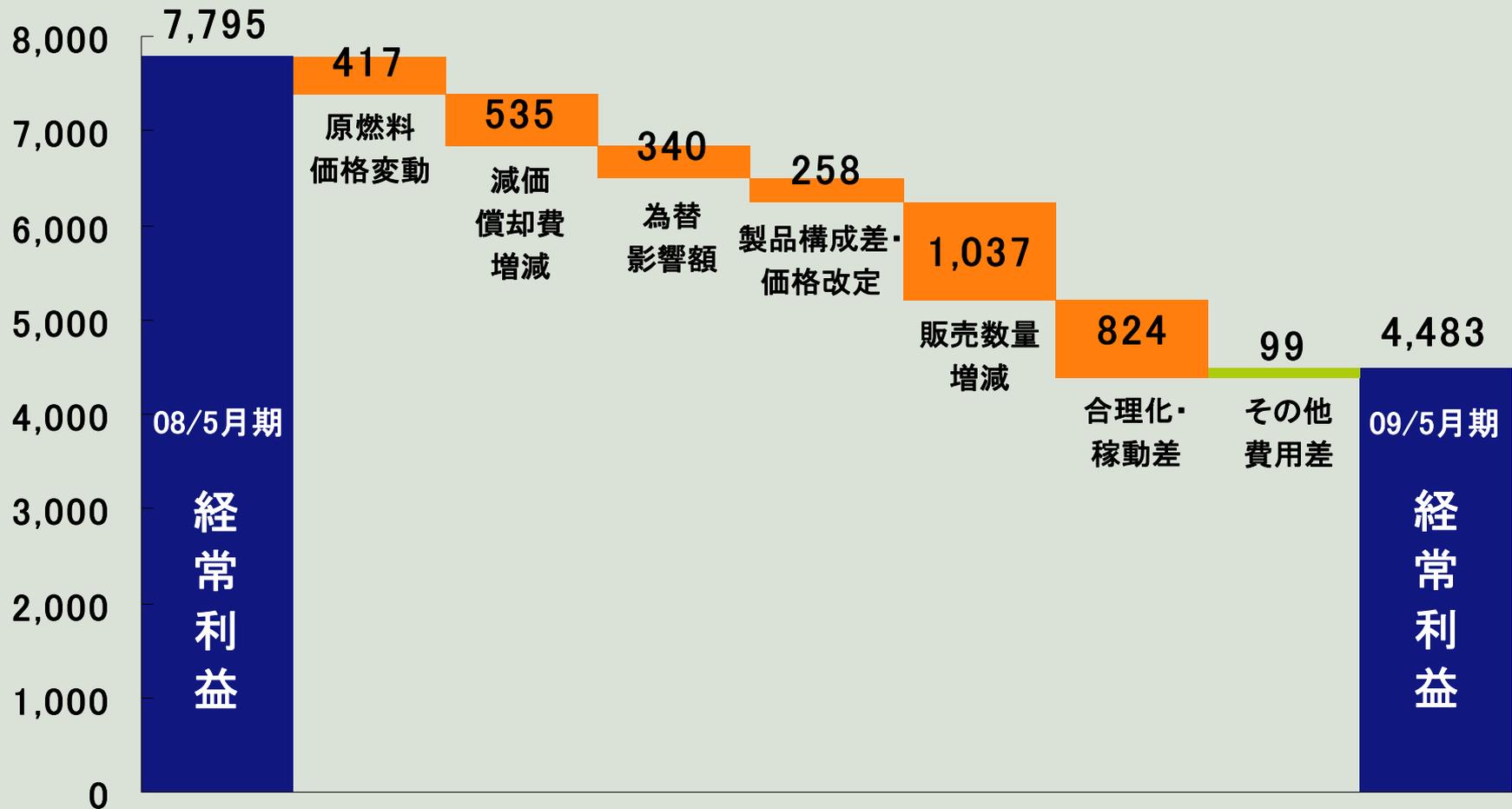
## ポイント

- 上期までは好調を維持するも、下期に入り一気に悪化。半導体分野及び成長を主導してきた中国太陽電池用も含めて、殆どの用途・業種・地域に及んだ急激かつ大幅な生産、在庫調整の影響を受け、下期の売上高は上期比ほぼ3割減。

- 需要急減に伴う販売・生産の落ち込みによる限界利益減に加えて、原料価格の高止まり・減価償却費増(+5.3億円)及び円高の影響もあり利益幅減少。但し、上期の貯金あり利益率二桁台は確保。

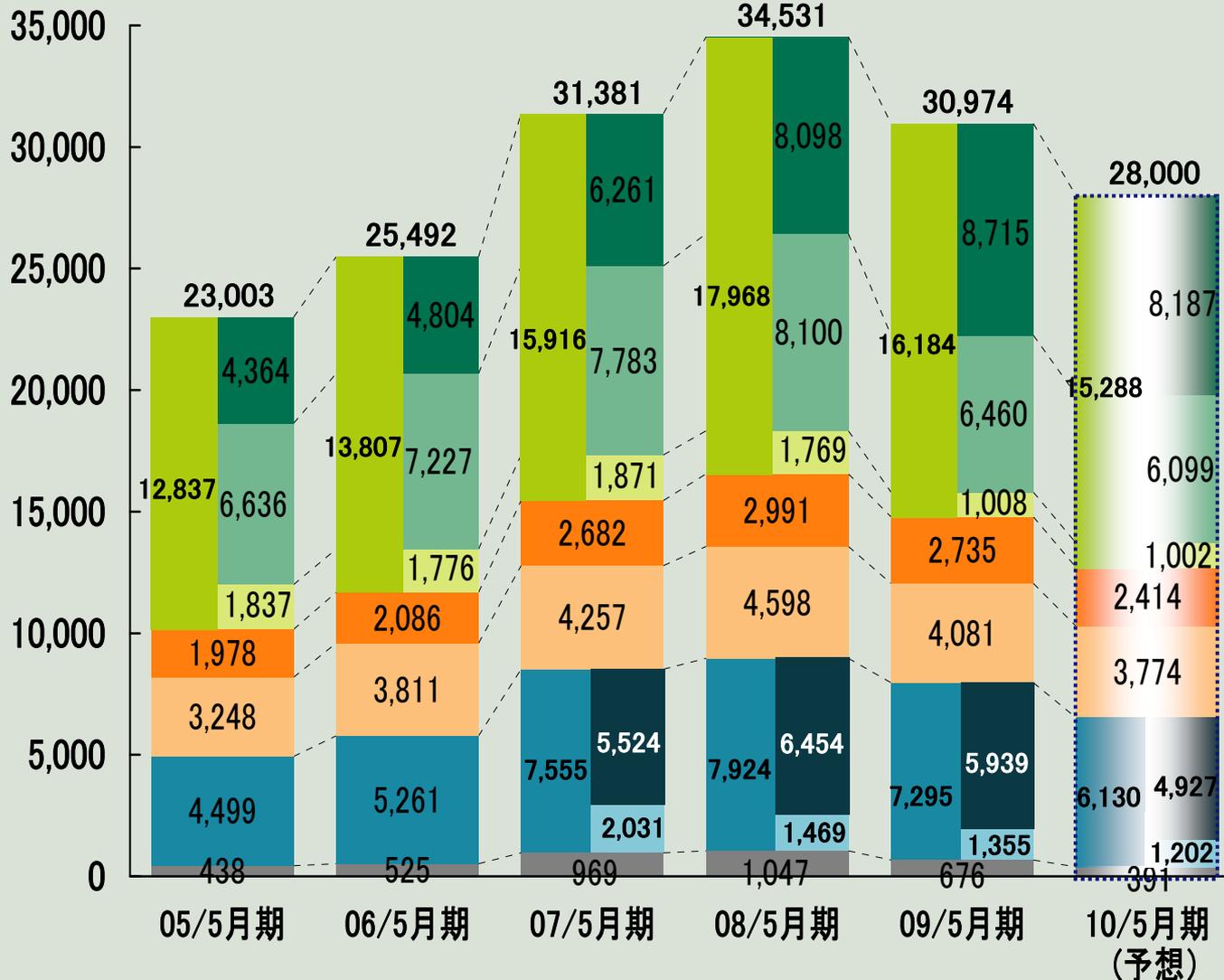
# 1-3. 經常利益增減要因

(單位：百萬元)



# 1-4. 製商品・分野別概況 ①売上高推移

(単位: 百万円)



(09/5月期対前年比)

- 特殊黒鉛製品【エレクトロニクス分野】 (+7.6%)
- 特殊黒鉛製品【一般産業分野】 (▲20.2%)
- 特殊黒鉛製品【その他】 (▲43.0%)
- 一般カーボン製品【機械用カーボン分野】 (▲8.5%)
- 一般カーボン製品【電気用カーボン分野】 (▲11.2%)
- 複合材その他製品【主要3製品】 (▲8.0%)
- 複合材その他製品【その他製品】 (▲7.8%)
- 商品 (▲35.4%)

## 特殊黒鉛製品

### 【エレクトロニクス分野】

- 太陽電池製造用途: 上期までは年率5割を超える高成長を続けるも、下期に入り主力の中国需要が急激に落ち込んだことを主因に一転減少に。ただし通年では上期の貯金あり前年比2割弱の拡大。現時点本格回復には至らず当面は調整続くが、世界的な環境意識・省エネ志向の高まりや各国の政策的な後押し並びに原料ポリシリコン増産を背景に、秋口以降緩やかに回復し2010年には再び成長軌道に戻る見込み。またシリコン結晶系のみならず、薄膜・化合物系での需要(C/C含む)もカバーし拡販を目論む。
- 単結晶シリコン製造用途: 半導体市況は下期に入り一段と悪化、主力の300mmウエハー向けを中心に主要顧客の引き取り大幅減、通期でも前年比約3割減となった。客先の稼働は徐々に上向きつつあるも、黒鉛在庫調整も含めて本格的回復には未だ時間を要する見込み。
- 化合物半導体製造用: 携帯電話やデジカメ等の不振を受け、主力のLED向けを中心に低迷。ただし液晶や携帯の回復を背景に韓国・台湾が主導し本格回復に向かう模様。



ルツボ



ヒーター

### 【一般産業分野】

- 放電加工電極用途: 特に自動車・家電産業の世界的な落ち込みを主因に国内外とも下期は大幅減少。当面厳しいが、特に景気対策の後押しを受けた中国需要の回復に期待。
- 景気後退に伴う設備投資急減を背景に、連続鋳造用を始めとする冶金ならびに工業炉関連需要が大幅縮小。ただしここに来て連続鋳造用を中心に底打ちの気配、徐々に回復へ。



放電加工用電極



連続鋳造用ダイス

## 一般カーボン製品

### 【機械用カーボン分野】

- エアコン向けや景気変動の影響小さいパンタグラフ用すり板は健闘するも、主力の軸受け・シール材等が石化プラント・ポンプ関連の設備投資抑制を主因に需要減少。当面調整続くが年後半の回復を期待。



パンタグラフ用すり板



ベアリング

### 【電気用カーボン分野】

- 欧米景気悪化の影響を受け、生産基地である中国の需要が減退。国内も家電・自動車関連の不振の影響でブラシおよび燃料ポンプ用とも低迷。グローバル経営を強化中。



小型ブラシ

## 複合材その他製品

- SiCコーティング黒鉛製品：LEDや光ピックアップ素子製造用サセプターを主とする化合物半導体向けとポリシリコン製造用の下支えはあったものの、主力の半導体向け（Si-Epi用等）が市況悪化により減少。通期では前年比1割以上の減。暫く調整続くが、光デバイス・半導体関連とも下期にかけて緩やかに回復へ。
- C/Cコンポジット製品：300mmウエハー製造用大型ルツボが主要顧客の稼働減・在庫調整により下期に入り激減となるも、太陽電池向けがカバーし通期では前年比1割強の伸長。ルツボは顧客の在庫調整も含めて回復には未だ時間要するが、太陽電池関連は薄膜タイプ向けや新規案件含めて拡大の可能性大きい。昨年受注した核融合炉向けの納入も含めて、下期以降は再び成長軌道に。
- 黒鉛シート製品：主力の自動車用・半導体用が不振を極め下期に入り大幅減。当面厳しいが足元は徐々に回復の兆しあり。ヒートシンク（放熱）用途等の新規用途での拡販進行中。



SiCコーティング  
黒鉛製品



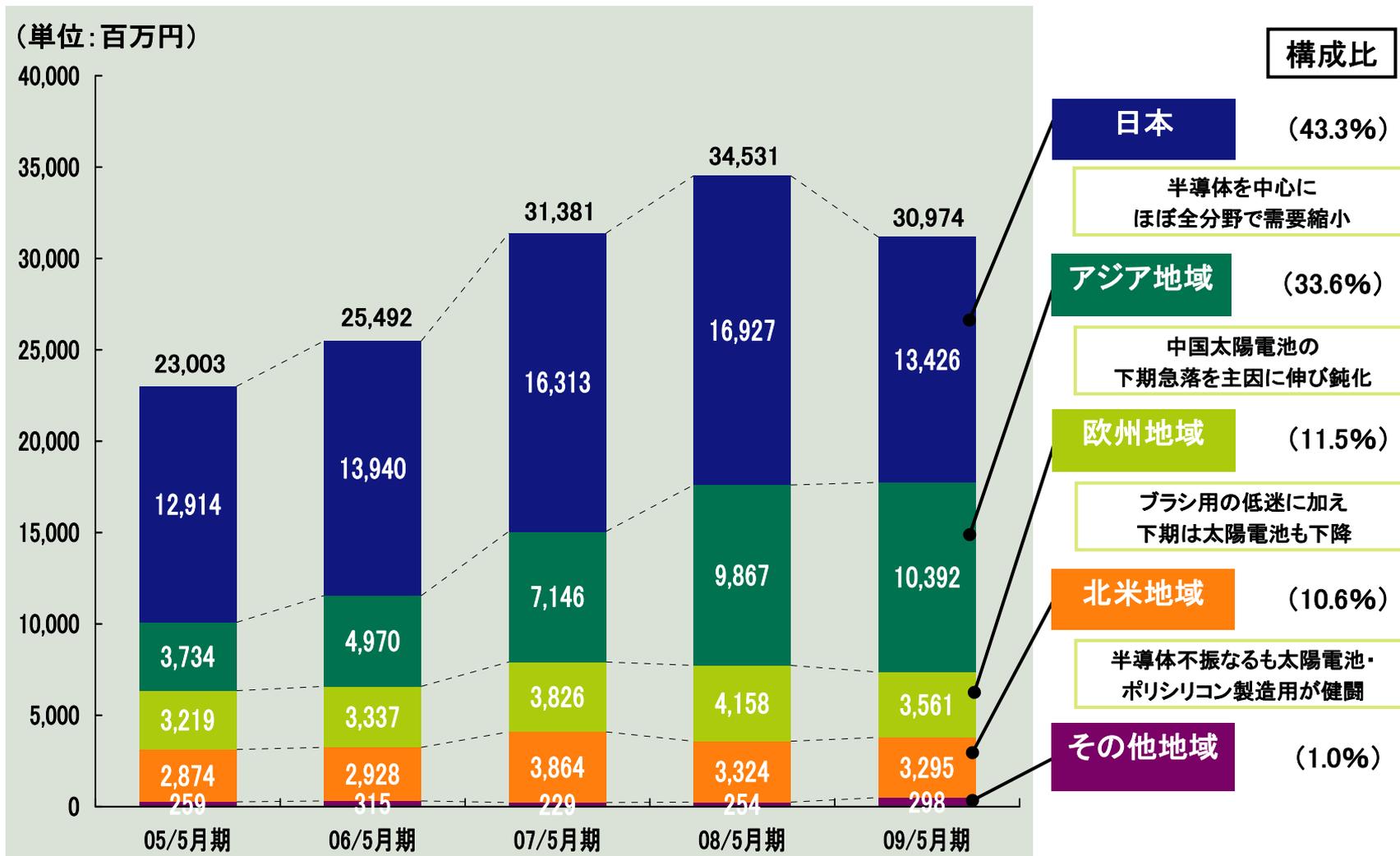
C/Cコンポ  
ジット製品



黒鉛シート

## グローバル化の進展によりアジアを中心に海外売上高比率が拡大

( 05/5月期 43.9% ⇒ 09/5月期 56.7% )



## 2-1. 2010年5月期業績予想

### ポイント

(単位:百万円)

	09/5月期	10/5月期 予想	増減額	増減率
売上高	30,974	28,000	▲2,974	▲9.6%
営業利益	4,741	2,500	▲2,241	▲47.3%
(売上高営業利益率)	(15.3%)	(8.9%)		
経常利益	4,483	2,500	▲1,983	▲44.2%
(売上高経常利益率)	(14.5%)	(8.9%)		
当期純利益	2,566	1,500	▲1,066	▲41.6%
1株当たり 当期純利益	123円80銭	72円34銭		

- 各国の経済対策の後押しもあり回復の動きは出始めているものの、タイムラグも含めて少なくとも年度前半は主力の太陽電池や半導体分野を中心に調整局面を引きずる見込み。一方で中長期的には、息の長い環境・省エネ志向を背景に太陽電池用が再び成長軌道に戻るとともに、原子力・LED等の拡大期待も含めて高機能カーボンの需要は拡大に転ずると予想。その動きは年度後半より徐々に顕在化の見込み。これらに円高の影響も勘案し通期280億円(前年比▲9.6%)の予想。

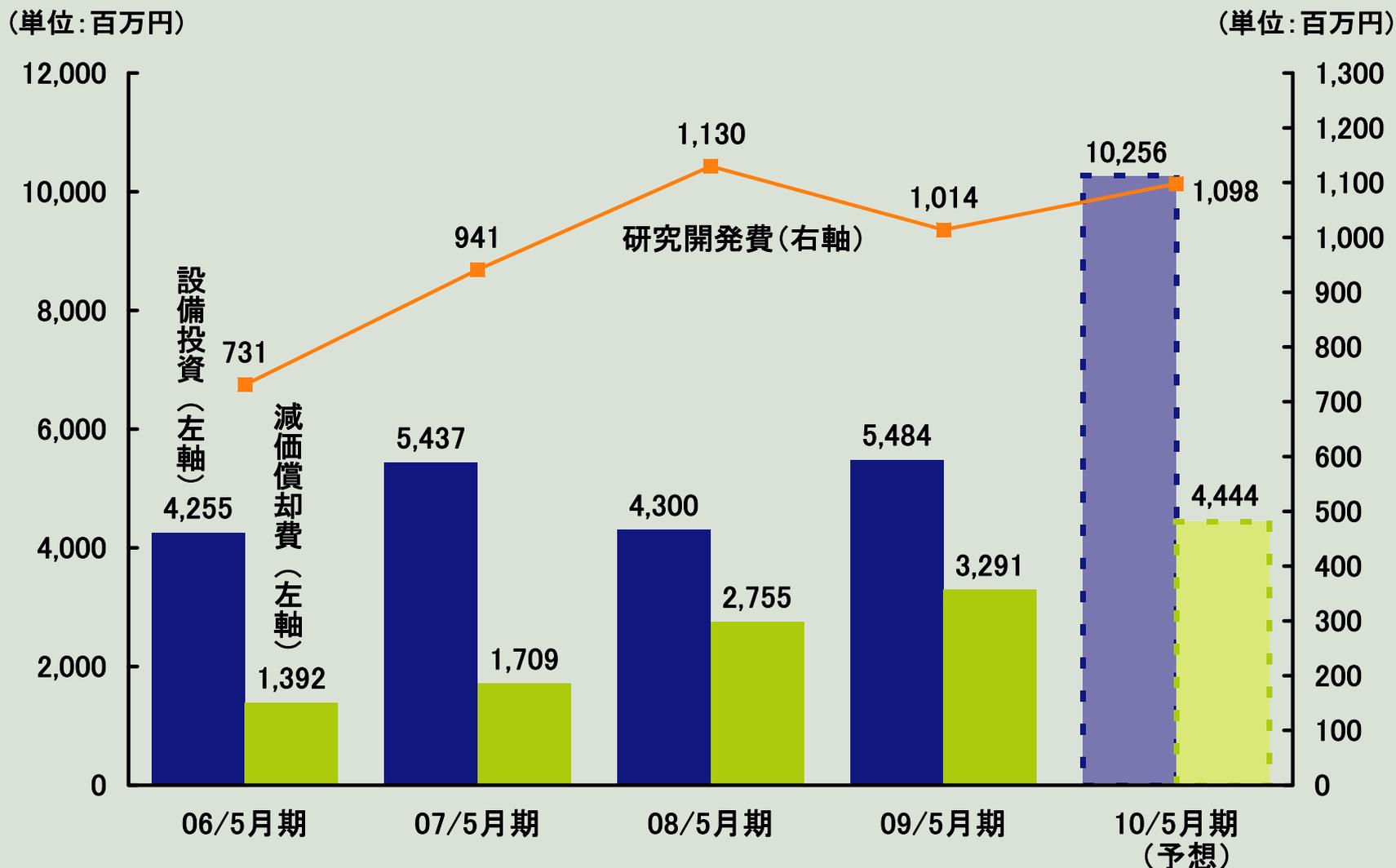
- 特に年度前半の厳しい経済環境と、高水準の投資に伴う減価償却費増(+11.5億円)・退職給付費用増(+2.1億円)並びに円高の影響も含めて利益幅縮小。
- まず足元の経費・コスト削減及び設備投資の厳選・圧縮に努める。一方で先を見据えた成長の為の布石は着実に打っていく。(等方性黒鉛の年4,000t新プラント建設は予定通り貫徹、2010年春より素材供給開始予定。)

10/5月期の前提為替レート

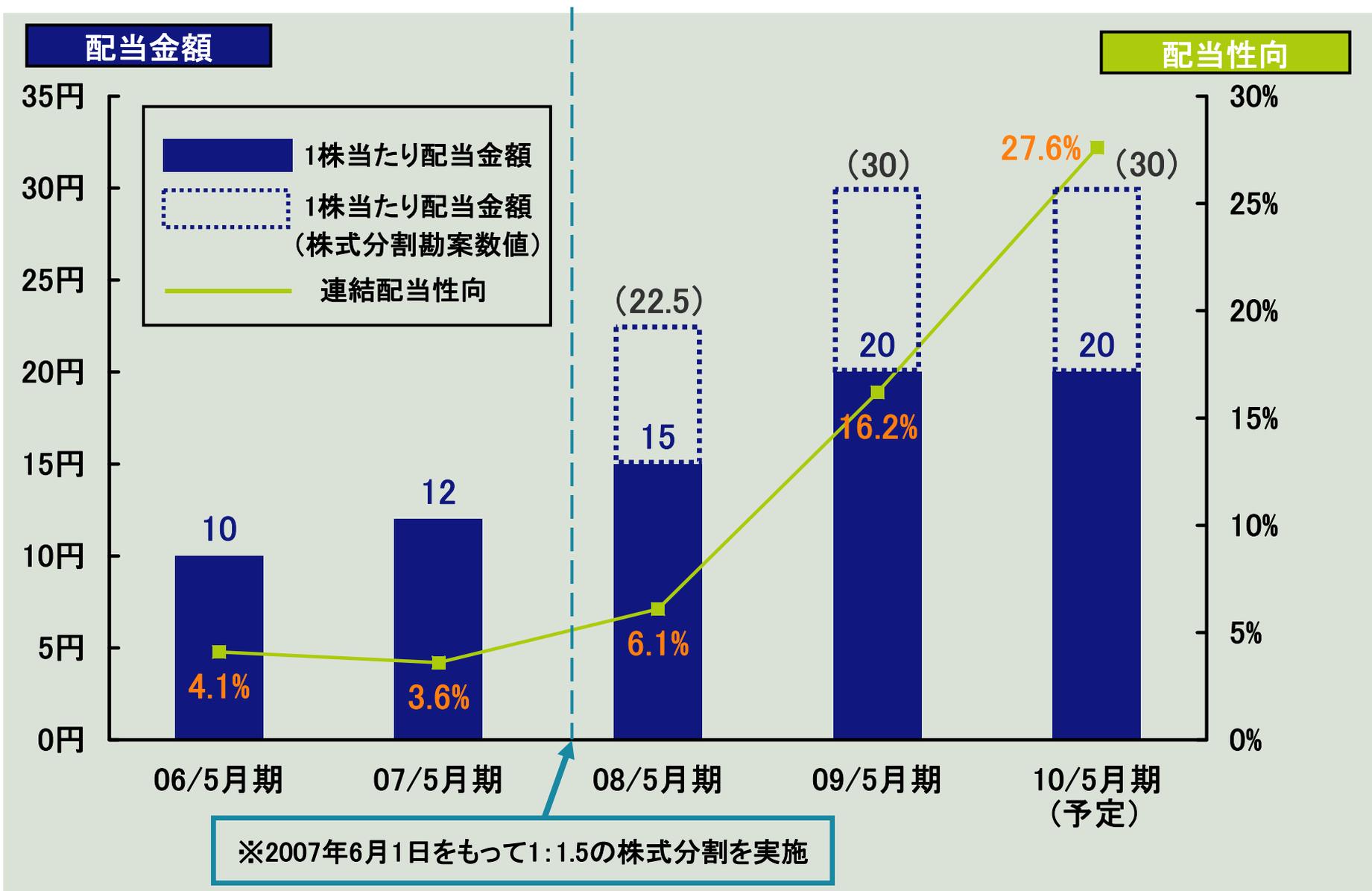
93円/US\$、130円/EUR

## 2-2. 将来への投資 (設備投資・減価償却費・研究開発費)

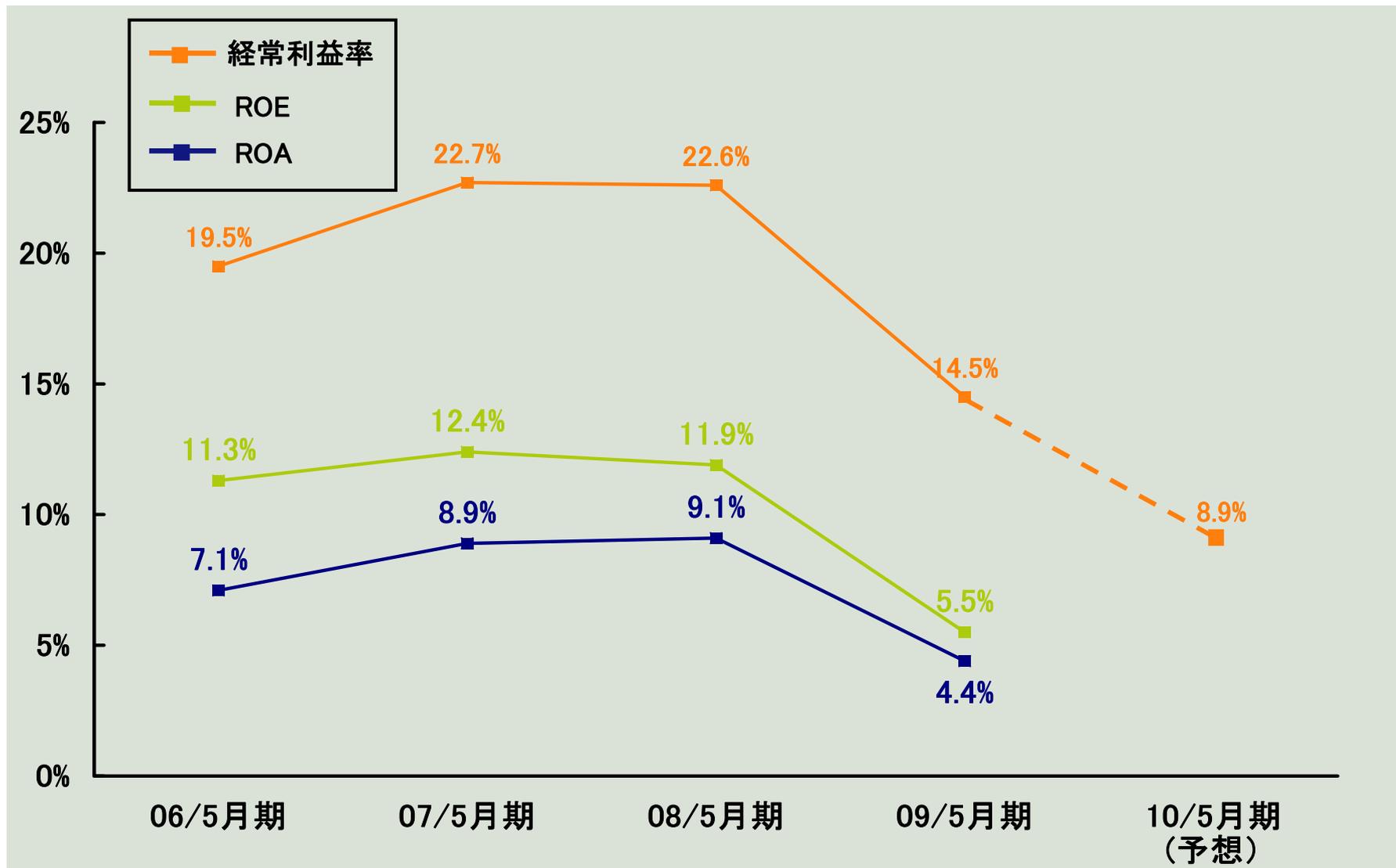
足元は投資の厳選、圧縮を図りつつ将来を見据えた戦略大型投資を実行



## 2-3. 株主還元 配当推移



## 2-4. 主要経営指標の推移



## 3-1. トピックス ～各国の展示会に出展～

世界的な環境意識の高まりを受け「太陽光発電」「太陽電池」への注目度がますます増加している中、各国にて大規模な展示会が開催されている。東洋炭素としても注力分野であるため、新規顧客の開拓、当社製品・技術の優位性アピールなどを目的に、日本、中国、韓国の展示会に出展した。

### 国際太陽電池展PVEXPO2009

2009年2月25日～27日、東京ビッグサイトで開催された、太陽電池業界ではアジア最大規模の展示会「第2回国際太陽電池展PVEXPO2009」に出展。黒鉛部材のヒーター、サセプター、C/Cコンポジット製のるつぼやプレート等を展示。約800社が当社ブースに来訪。



### SEMICON/SOLARCON Korea 2009

2009年1月20日～22日、韓国(ソウル市)で開催された「SEMICON/SOLARCON Korea 2009」に出展。太陽電池製造用、半導体製造用に加え、熱処理用、放電加工用、連続鋳造用の黒鉛製品、C/Cコンポジット製品等を幅広く展示。約700社が当社ブースに来訪。



### SEMICON/SOLARCON China 2009

2009年3月17日～19日、中国(上海市)で開催された「SEMICON/SOLARCON China 2009」に出展。太陽電池製造用を中心に炉内部品、黒鉛製品、C/Cコンポジット製品等を展示。約150社が当社ブースに来訪。



# (参考1) 2009年5月期貸借対照表

	(単位:百万円)		
	08/5月末	09/5月末	
<b>資産合計</b>	57,706	58,821	● 過少となっていた中間在庫の積み増し等により、08/5月末対比2,295百万円増。
受取手形及び売掛金	10,992	8,257	
たな卸資産	7,224	9,520	● 等方性黒鉛および付加価値工程の能力増強等により、08/5月末対比1,938百万円増。
有形固定資産	21,269	23,208	
<b>負債・純資産合計</b>	57,706	58,821	● 当期純利益2,566百万円による増加。
有利子負債	1,701	1,394	
資本金	7,692	7,692	
純資産	46,523	48,606	
<b>自己資本比率</b>	79.0%	80.6%	

## ポイント

- 過少となっていた中間在庫の積み増し等により、08/5月末対比2,295百万円増。

- 等方性黒鉛および付加価値工程の能力増強等により、08/5月末対比1,938百万円増。

- 当期純利益2,566百万円による増加。

# (参考2) 2009年5月期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	08/5月期	09/5月期
現金及び現金同等物の 期末残高	10,491	6,412
現金及び現金同等物の 増減額	▲1,143	▲4,079
現金及び現金同等物の 期首残高	11,558	10,491
営業活動によるCF	6,635	5,105
投資活動によるCF	▲5,924	▲8,420
財務活動によるCF	▲1,753	▲568

## ポイント

- 税金等調整前当期純利益、減価償却費の増加。

- 有形固定資産取得に伴う支出。



(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: [ir@toyotanso.co.jp](mailto:ir@toyotanso.co.jp)